

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	特定非営利活動法人ダンスボックス	
施 設 名	ArtTheater dB 神戸	
助成対象活動名	公演事業、人材養成事業、普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	20,945	(千円)
	公 演 事 業	12,132 (千円)
	人 材 養 成 事 業	2,661 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	6,152 (千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ダンスボックス・ソロダンスシリーズvol.3	平成31年3月9日(土) 10日(日)	演目:「愛のゆくえ」 出演・振付・音:垣尾優 舞台監督:大田和司、米澤百奈 照明:三浦あさ子、茂木紀恵 音響:西川文章 記録写真・映像:岩本順平	目標値	240名
		ArtTheater dB KOBE		実績値	155名
2	ダンスボックス踊りの火シリーズ	平成30年9月29日(土) 平成30年12月8日(土) -9日(日)	演目:千日前青空ダンス倶楽部「無邪気な庭」 振付:紅玉 出演:稲吉、小つる、そら、エミリー、菜々、山本和馬 美術:小石原剛 舞台監督:大田和司 照明:三浦あさ子 音響:西川文章 記録写真・映像:岩本順平 演目:モノクロームサーカス「TRIPTYQUE/三部作」 振付・出演:坂本公成、森裕子 出演:中間アヤカ、山本和馬他 舞台監督:渡川知彦 照明:三浦あさ子 音響:西川文章 記録写真・映像:岩本順平	目標値	480名
		ArtTheater dB KOBE		実績値	363名
3	DANCE BOX International works Darrell Jones (ダレル・ジョーンズ)	平成30年8月3日(金) -8月4日(土)	演目:「クラッチ」 コンセプト、振付:ダレル・ジョーンズ 出演:ダレル・ジョーンズ、J.スン・ハワード、デimon・グリーン ソニック:ジャスティン・イグナシウス・ミチエル 舞台監督:大田和司 照明:三浦あさ子、茂木紀恵 音響:西川文章 衣装:パトリック・バーンズ、デimon・グリーン 記録写真:岩本順平 宣伝美術:DOR 通訳:米澤新二、福森ちえみ	目標値	240名
		ArtTheater dB KOBE		実績値	126名
4	アソシエイト事業	平成31年2月23日(土) -24日(日) 平成31年3月23日(土) -24日(日)	演目:DANCE PJ REVO「STUMP PUMP」 演出・振付:田村興一郎 演出・振付助手:Nishi Junnosuke 出演:阿部真理亜、岡本五、久保田舞、仙波晃典、手塚パウシュ、貫渡千尋、田村興一郎 舞台監督:下村唯 照明:三浦あさ子 音響:西川文章 記録写真:岩本順平 演目:中間アヤカ&コレオグラフィ『フリーウェイ・ダンス』 ダンス:中間アヤカ ドラマトウルク:藤澤智徳 セノグラフィ・出演:阿雲モナイ、田添幹雄 舞台監督:大田和司 照明:三浦あさ子 音響:西川文章 記録写真:岩本順平	目標値	320名
		ArtTheater dB KOBE		実績値	323名
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	1,110名
				実績値	967名

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	dB未来のスタッフ塾	2018年8月13日、 7月14日、15日、 11月18日、 2019年1月21日、 3月19日、25日	【テクニカル講座】「照明の仕事」講師：茂木紀恵 「劇場管理の仕事・安全対策編」講師：下村唯「音響機材の取り扱い」講師：和田真也 【マネージメントスタッフ育成講座】「アートプロジェクトの評価軸について考える ～下町芸術祭編～」講師：大澤寅雄 【ファシリテーター養成講座】「高齢者・障がい者・子どもと踊る場・表現を考える研究会」ナビゲーター：田中幸恵	目標値	72名
		ArtTheater dB KOBE		実績値	56名
2	下町芸術大学2018	2018年9月23日、28日 10月6日、7日、8日、 16日、30日、 11月6日、14日、22日	演目：千日前青空ダンス倶楽部「無邪気な庭」 振付：紅玉 出演：稲吉、小つる、そら、エミリー、菜々、山本和馬 美術：小石原剛 舞台監督：大田和司 照明：三浦あさ子 音響：西川文章 記録写真・映像：岩本順平 演目：モノクロームサーカス「TRIPTYQUE/三部作」 振付・出演：坂本公成、森裕子 出演：中間アヤカ、山本和馬他 舞台監督：渡川知彦 照明：三浦あさ子 音響：西川文章 記録写真・映像：岩本順平	目標値	300名
		ヨンバンカンニカイ、ヤスダヤビルヂング、駒ヶ林・真陽地区、和田岬・兵庫津、デザイン・クリエイティブセンター神戸、岡方倶楽部、旧合田邸、路地裏百貨店、丸五市場、r3		実績値	227名
3	dBアーカイヴプロジェクト	2018年6月23日、 7月21日、8月25日、 2019年1月18日～20日	dBアーカイヴ・プロジェクトvol.2 黒沢美香&大阪/神戸ダンサーズ「ジャズ・ダンス」 出演・共同研究：北村成美、福岡まな実、きたまり、中間アヤカ、平岡久美、横堀ふみ、文、黒沢美香アーカイブズ 舞台監督：北方こだち 照明：三浦あさ子 音響：西川文章	目標値	600名
		アートエリアB1、 ArtTheater dB KOBE		実績値	255名
4	大学との連携	2018年4月～2019年3月、 2018年6月1日～ 2019年3月31日	(講師の派遣)講師：大谷燮 派遣先：近畿大学文芸学部 アートマネージメント論A/B、 アートマネージメント実習 (インターンシップ) ・大阪体育大学健康・スポーツマネジメント学科、近畿大学文芸学部、神戸大学国際人間科学部	目標値	インターン3 講師3名
		近畿大学、 ArtTheater dB KOBE		実績値	インターン3名 講師3名
平成30年度の目標値、実績値				目標値	978名
				実績値	544名

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	子どもダンス留学@神戸	2018年8月6日～12日	内容：基礎トレーニングクラス、座学、ワークショップ、成果公演 講師：ダレル・ジョーンズ、岡登志子、寺田みさこ、金子優、セレノグラフィカ（隅地菜歩、阿比留修一）、紅玉 メンター：田中幸恵 アシスタント：Jスン・ハワード、デーモン・グリーン、アシスタント・記録：新家綾 音楽：ジャスティン・イグナシウス・ミチエル 通訳：益田さち、山口恵子 舞台：下村唯、照明プラン：三浦あさ子、照明：茂木紀恵、音響：吉田涼 写真・映像記録：岩本順平 宣伝デザイン：升田学	目標値	入場者数80名 ・子ども参加者数12名
		ArtTheater dB神戸		実績値	入場者数74名 ・子ども参加者数12名
2	紳士淑女の音楽サロン	2018年2月15日	演目：千日前青空ダンス倶楽部「無邪気な庭」 振付：紅玉 出演：稲吉、小つる、そら、エミリー、菜々、山本和馬 美術：小石原剛 舞台監督：大田和司 照明：三浦あさ子 音響：西川文章 記録写真・映像：岩本順平 演目：モノクロームサーカス「TRIPTYQUE/三部作」 振付・出演：坂本公成、森裕子 出演：中間アヤカ、山本和馬他 舞台監督：渡川知彦 照明：三浦あさ子 音響：西川文章 記録写真・映像：岩本順平	目標値	350名
		ArtTheater dB神戸		実績値	124名
3	劇場へようこそ！劇場が遊び場編、ダンスキャラバン編	2019年2月6日、13日、15日	作品名：シベリアの花 演出・構成・美術：升田学 演奏・構成協力：等々力政彦 出演：池上たっくん、いはらみく、田添幹雄、貫渡千尋、米澤百奈、升田学 舞台監督・安全管理：米澤百奈 記録映像：池田浩基 記録写真：岩本順平 宣伝用イラスト：升田学	目標値	400名
		ArtTheater dB神戸 ふたば学舎 神戸市立真陽小学校 神戸市立駒ヶ林小学校		実績値	154名
4	アートキャバレー	2018年11月23日、24日	「アートキャバレー」 構成：筒井潤 出演者：目黒大路、砂山典子、舞踏家集団デュ社、新長田アートマフィア（出演：林政徳、吉川史浩、角野史和、首藤義敬、渡辺祥弘、高見大地、高橋大輔、中元俊介、岩本茂、岩谷一司、合田昌宏／振付：目黒大路）、モスコミュール（出演：上野愛実、内田結花、貫渡千尋、松本鈴香／振付：C.Snatch Z.）、田中幸恵＋岩谷一司（司会）、舞台監督：浜村修司 照明：池辺茜 音響：西川文章、映像／写真記録：岩本順平 宣伝デザイン：西谷竜太 フード協力：カルチア食堂	目標値	120名
		ArtTheater dB神戸		実績値	95名
5	出前ダンスプロジェクト	2018年5月1日～2019年3月31日	「出前ダンスプロジェクト」 対象者：高齢者、子ども、子連れのママ、保育所の職員、障がいをもつ子ども達等 講師：米澤百奈、筒井潤、田中幸恵、井原未来、山本和馬、森山真由子、他	目標値	500
		故郷の家・神戸、真陽さくらグラウンド、真陽小学校グラウンド、高取山地域福祉センター、房王子保育所、神戸市総合療育センター「まるやま学園」、大正筋商店街、他		実績値	1560名
平成30年度の目標値、実績値				目標値	1,302名
				実績値	2,019名

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

ArtTheater dB KOBEのミッションは、＜実演芸術の発展・促進に寄与する場としての劇場＞、並びに、＜commonsとしての劇場＞である。＜実演芸術の発展・促進に寄与する場としての劇場＞に基づき主に「公演事業」を、＜commonsとしての劇場＞や“地域の特性”に基づき「普及啓発事業」を、そして両者に立脚するものとして「人材養成事業」を組み立てた。これらの事業は、定量評価や、参加アーティストや関係者からのフィードバック、地域住民等へのヒアリング、来場者アンケート、そして公演レビュー等を参照し、適切に組み立てられていたと評価する。また、助成金交付要望書より「内容」についての大きな変更点は生じていない。「事業費」については、変更率が40%を越える事業が、計13事業のうち5事業ある。増額したものは2事業、減額したものは3事業であるが、それらは事業趣旨の効果を高める為の変更である。但し、全体の事業費の変更率は5%の減額である。よって齟齬は生じていないと考える。これらの点をもって、妥当性があると考えます。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

ArtTheater dB KOBEの事業における助成に値する文化的意義、社会的意義、経済的意義について、ステークホルダーの期待や地域のニーズを検証した上で次のように考える。

- ・ 文化的意義：関西で唯一ダンスに特化した劇場として、ダンス表現における先駆性、実験性を牽引し、次の時代の新たなアイデンティティを創出すること。
- ・ 社会的意義：多様な領域で活動する人々や地域住民等間の対話を育む場として機能し、地域社会における様々な課題の解決に寄与すること。
- ・ 経済的意義：人口減少や高齢化、空き屋空き地問題などの問題を抱えている中、アーティスト等の若い人材が多く来場して滞在する機会を創出し、それらが移住促進へと繋がり地域社会の経済的効果を生み出すこと。

平成25年度より「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」の助成を得て、数多くの事業を継続して実施してきた中で、それらの効果が生まれており発展の様相を見せている。これらの点をもって、助成に値する意義が認められると考える。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

ArtTheater dB KOBÉの「公演事業」「人材養成事業」「普及啓発事業」を総括した目標設定及びその達成状況については次の通りである。

#### 【実演芸術の発展・促進にまつわる目標】

■ [目標1] 創造性の高い作品の初演：[検証方法] 計5作品の初演を行った公演の来場者アンケート、公演レビュー、批評家による平成30年度事業のフィードバック [達成状況] 検証に用いた資料では多角的なアプローチによる創造性について言語化がなされ、今後に向けた期待が書かれていた。よって、達成できたと考える。

■ [目標2] 当劇場で制作した作品の流通：[達成状況] 作品の再演に向けて複数の劇場やフェスティバルと交渉を進めており、令和元年度での実施が見込められる為、進捗していると言える。

#### 【劇場・音楽堂等を担う人材の育成にまつわる目標】

■ [目標3] 次代を担う新進芸術家の育成：[検証方法] 新進芸術家の事業実施後の活動状況や、参加した新進芸術家のフィードバック [達成状況] 公演事業「アソシエイト・アーティスト/カンパニー制度」に起用した2組の新進芸術家は令和元年度には海外でのレジデンスへの参加が既に決定している等、育成を進めることができている。

■ [目標4] 制作者や劇場管理、技術スタッフ等の専門的人材の能力やスキルの向上：[検証方法] 人材養成事業「dB未来のスタッフ塾」参加者の事業実施後の活動状況 [達成状況] とくに成長の著しかった劇場管理のスタッフは、劇場管理のアシスタント・スタッフとしてのべ20公演を経て、チーフとして15公演の実績を積むことができた。また、外部からの依頼を受け他劇場にて3公演の舞台監督を行うなど、育成を進めることができている。

■ [目標5] WS等のファシリテーターの養成：[検証方法] 当団体で実施している小学校等の教育機関へのアウトリーチ事業の為にファシリテーター・アシスタントの登録者数と活動状況 [達成状況] 平成30年度の登録者数は19名にのぼる。その中で、外部での実績を積んでいる者（セレノグラフィカ、北村成美、砂連尾理等のアーティストのアウトリーチ事業にアシスタントとして依頼を受ける）は8名、且つ自身でファシリテーターを務めるようになった者は6名になる。よって、育成を進めることができている。

#### 【来場者・参画者にまつわる目標】

■ [目標6] 来場者数/参画者数：[検証方法] 「助成金交付要望書の目標数」と「報告書での実績数」の比較 [達成状況] 目標値は3,304名と設定し、実施した結果3,524名の来場/参画があった。当初よりも220名多く達成できている。しかしながら、各事業単位において、目標数を些少な数値で下回る事業が半数以上を占めたことは次年度における課題である。

■ [目標7] 長田区民の増加：[検証方法] 公演事業における過去3年間の長田区民の来場率の比較 [達成状況] 平成28年度は8%~10%の来場率、平成29年度は3%~5%、平成30年度は13%~15%の来場率と増加した。よって、達成できたと考える。

■ [目標8] 障がいのある人や乳幼児をもつ親、高齢者、外国人を含めた多様な地域住民の来場や参画：[検証方法] 普及啓発事業の過去3年間の来場者/参画者数の比較 [達成状況] 平成28年度1,170名、平成29年度1,416名、平成30年度2,019名と増加した。よって、達成できたと考える。

#### 【地域の活性化や魅力を高めることにまつわる目標】

■ [目標9] 地域の文化的リーダーの養成：[達成状況] 平成30年度に地域住民と共に立ち上げた新規事業がある。それは<組織名：「新長田アートマフィア」事業名：「藝賭せ」>である。計18名の地域住民が主体的となって、福祉、教育、建築、スポーツ等の多角的な領域を横断しながら、芸術文化事業を実施する社会活動である。達成できている。

■ [目標10] 次代の地域を担う子どもの舞台芸術体験率の向上：[検証方法] 「子どもダンス留学@神戸」に参加した子どもや保護者のフィードバック及び成果公演来場者アンケート、並びに「劇場へようこそ！ダンスキャラバン編」の公演来場者アンケート [達成状況] 「公演事業」における来場者アンケートの回収率は6~9%である中、「子どもダンス留学@神戸」の成果公演の来場者アンケートは43%を越え、大半の内容が高い評価であった。また、「子どもダンス留学@神戸」の参加者の子どもや保護者のフィードバックは次年度への再参加の希望も書かれ、体験率の向上を現している。

#### 【経済基盤の強化の目標】

■ [目標11] 収入源の拡張、チケット収入の増加：[検証方法] 公演事業における過去3年間の有料入場者数の割合の推移。 [達成状況] 平成28年度は77%、平成29年度は85%、平成30年度は78%と変動を示す。次年度における継続しての課題である。

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

ArtTheater dB KOBEの事業において、各個別事業の事業期間や事業費の効率性について検証し、〈つくる劇場〉のアイデンティティをもつ劇場として、アウトプットの効率性をうみだす為の創作環境について考察する。

#### 【事業期間について】

「当初の事業期間」から「確定した事業期間」において、変更のあった事業は次の2事業のみである。それらは事業趣旨の効果を高める為の変更である。よって、適切な事業期間を設定し、当初の計画通りに進んだと考えられる。

#### ■人材養成事業「dBアーカイブ・プロジェクト」

変更内容：展示プログラムの期間が「16日間」から「3日間」への変更

変更理由：資料や写真等の記録展示のみならず、振付家である黒沢美香が逝去した中で、黒沢の代表作の一つ『ジャズ・ダンス』を再演する試みを取り入れた為。またその為の環境を整えることを最優先事項とし、当初の会場予定であったアートエリアB1からArtTheater dB KOBEへと変更した。

#### ■普及啓発事業「劇場へようこそ！ダンスキャラバン編」

変更内容：「1日で1回」から「3日で4回」への変更

変更理由：制作したプログラムが、モデルケースとしての汎用性を高め、強度を持たせる為に、回数を重ねることを重視した。

#### 【事業予算について】

「当初の収支予算」から「確定した収支決算」を比較すると、交付要望書での全事業費は46,509千円で、報告書での全事業費は44,335千円となり、2,174千円分（変更率5%）の減額を示している。個別事業では、変更率が40%を越える事業は計13事業のうち5事業ある。変更理由は、いずれも事業趣旨の効果を高める為である。個々の事業での変動はあるが、全体の予算のなかで調整を行った。よって、適切な事業費を設定し、当初の計画通りに進んだと考えられる。

#### ■公演事業：DANCE BOX International works Darrell Jones

変更内容：2,339千円の減額（変更率42%）

変更理由：リンクスホール（シカゴ）と連携することにより、リンクスホールが文芸費の一部を共同負担した為。

#### ■公演事業：アソシエイト・アーティスト/カンパニー公演

変更内容：3,908千円の増額（変更率62%）

変更理由：2組の新進芸術家の新作上演のプランが、劇場空間の通常のスタイルでの利用ではなく大規模な変更を加えたプランであった為、予算が増額した。

#### ■普及啓発事業：「紳士淑女の音楽サロン」

変更内容：1,491千円の減額（変更率65%）

変更理由：アクセシビリティの低い高齢者が参画しやすい環境を整備する為「出前版」を取り入れた為、劇場での実施にかかる費用の縮小化を図る事になった。

#### ■普及啓発事業：「アートキャバレー」

変更内容：1,611千円の減額（変更率41%）

変更理由：各項目において費用の縮小化に取り組んだ為。

#### ■普及啓発事業：「出前ダンスプロジェクト」

変更内容：1,160千円の増額（変更率64%）

変更理由：継続して出前を行うことを重視し、実施回数が予定よりも大幅に増加した為である。

#### 【アウトプットに対して、事業期間や事業費の効率性について】

ArtTheater dB KOBEのアイデンティティの一つに〈つくる劇場〉がある。その意義を高める為に、大半の公演事業や普及啓発事業における上演を「新作創作」として行っている。それを実現する為に、〈滞在制作〉を基盤とした創作環境を整え、創作過程の一連の流れを確立した。また、劇場が使われていない時は稽古場として利用できるようにしている。そのことにより、スタッフとの密なコミュニケーションをとりながら、新作創作での上演に関わらず、事業期間・事業費・事業内容とも大きな変更を行わずに開催できるように整備できてきた。よって、平成25年度より「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」の助成を得て、数多くの事業を試行錯誤しながら継続して実施し、より一層アウトプットに対しての効率性を高められるようになったと言える。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【視点1】劇場・音楽堂等が地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮するために資源が何かを確認する。

#### (2) 劇場・音楽堂等を象徴する人物。鍵となる人物の存在

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する為の資源として、次の2名の人的資源を挙げる。西神戸、関西、日本、海外との結節点となり、当劇場の普及、活動内容の向上、独創性の獲得に努めている。

【代表：大谷燮】

特定非営利活動法人ダンスボックス（立ち上げ当初はDANCE BOX実行委員会）の共同創設者。

・平成22年度「神戸ソーシャル・ベンチャー・アワード」優秀賞受賞・平成22年度「国際交流基金地球市民賞」受賞・平成24年度「神戸市文化奨励賞」受賞・平成24年度「第7回神戸長田文化賞」受賞・平成27年度「KOBE ART AWARD」大賞受賞・平成29年度「文化庁長官賞」受賞

さらに、平成29年に「神戸アートビレッジセンター」の館長に就任し、新長田及び新開地に活動拠点を拡張し、西神戸の芸術文化の振興に務める。また、これまでに大阪府立江之子島文化芸術創造センター/enoco 指定管理者の選定及び活動評価の為の評価委員長、「トヨタ・コレオグラフィー・アワード」審査員、一般財団法人地域創造「ステージ・ラボ」ディレクター、「公共ホール現代ダンス活性化事業」審査員を務め、神戸市民文化振興財団理事、「こうべ全国洋舞コンクール」審査員、大阪府障がい者芸術・文化コンテスト審査委員長は現在に至るまで継続している。

【プログラム・ディレクター：横堀ふみ】

平成12年より当団体で制作スタッフを務める。平成21年にプログラム・ディレクター就任以降、国内外での劇場やフェスティバル関係者とのネットワークの構築に努めている。

・平成20年～現在まで、海外のフェスティバル等に招聘されシンポジウムに登壇する等、当劇場の海外への普及活動を行う（訪問地：タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、インド、ベトナム、オーストラリア、タイ、フィリピン、香港、韓国、ドイツ、ポーランド、フランス、アメリカ）

・平成24年～現在まで、NPO法人ON-PAM 舞台芸術制作者オープン・ネットワーク 理事

・平成26年、平成27年、平成29年「国際舞台芸術ミーティング(TPAM) in Yokohama」のディレクターを就任

#### (3) アソシエイト・アーティスト/カンパニーの存在

平成30年度から、2組の次代を牽引する新進芸術家を選出し、複数年度にわたって各々の創作活動を支援し、キャリアパスとなるような機会を創出する。

【DANCE PJ REVO（主宰：田村興一郎）】

【実績】横浜ダンスコレクションコンペティションII奨励賞(2015)、最優秀新人賞(2016)、コンペティションIシビウ国際演劇祭賞、若手振付家のための在日フランス大使館賞(2018)受賞。

平成29年度にソウルでレジデンス実施、「DNA (Dance New Air)」のダンスショーケースのキュレーションを務める。

【今後の予定】

・令和元年度、パリでレジデンスの実施、横浜ダンスコレクションでの単独公演の開催。・令和2年度、当事業で制作した作品をシビウ演劇祭での上演を予定。

【中間アヤカ】

【実績】平成24年度、文化庁・NPO法人DANCE BOX主催「国内ダンス留学@神戸」1期ダンサーコースに奨学生として参加、ダンサー奨励賞受賞。近年では黒沢美香、contact Gonzo、チェルフィッチュ等の作品に出演し、国内外の劇場やフェスティバルに参加している。

【今後の予定】・令和元年度、シカゴでのレジデンスを実施し、当事業で制作した作品の一部を上演。当事業で制作した作品を塚原悠也キュレーションのアーカイブ展に出展。

【視点2】地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する事業として優れていると認められるか。

#### (1) 公演の企画内容、作品の芸術性の独創性、新規性、先導性等

公演事業では、計6公演を行い、そのうち5公演は〈創作初演〉である。（「ダンスボックス・ソロダンス・シリーズ」他）若手からキャリアの確立したアーティストまで、幅広い世代のアーティストが「滞在制作」を経て公演を開催した。残りの1公演（「踊りの火シリーズ」モノクロームサーカス公演）は優れた作品の〈再演〉を行ったが、若手のダンサーが出演する構造をつくり、再演の場を「アーカイブの場」へと機能させた。

#### (2) 人材養成、普及啓発の企画内容の独創性、新規性、先導性

計9事業の実施、その中でも8事業（「子どもダンス留学@神戸」他）に新たな取り組み（新規事業、実施手法、内容、講師選定）を取り入れた。普及啓発事業の中では、全事業において、子どもからお年寄りまでの幅広い世代の地域住民の主体的な参画を促すプログラムを実施した。



## 【創造性】

### 自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

ArtTheater dB KOBEのステークホルダーの分類をした上で、各々とのコミュニケーション方法や質について述べ、情報発信の状況について記述する。

#### 【ArtTheater dB KOBEのステークホルダーの分類】

大きく次の3つの構成要素からなると考える。

- (1) アーティストやダンス関係者 (2) 地域住民や地域団体 (3) 行政 [文化庁/地方自治体等]  
(4) 地域外から来場する観客/参加者

#### 【ステークホルダーの期待や地域のニーズの把握方法】

(1) アーティストやダンス関係者：事業終了後にアーティストや関係者が会するフィードバックやヒアリングの場を設ける。

(2) 地域住民や地域団体：地域のイベント「真陽フェスティバル」でブースを設置し、アンケートの実施を行う。地域住民や団体が参画する事業の機会を通してヒアリングの場を設ける。

(3) 行政 [文化庁/地方自治体等]：「劇場法」の精読。地方自治体とは協働事業の機会を通してヒアリングの場を設ける。

- (4) アンケートの実施

#### 【ステークホルダーとのコミュニケーションの質】

(1) アーティストやダンス関係者：アーティストとは、年間を通じた事業への参画/来場の機会に対話の場をつくる。

(2) 地域住民や地域団体：地域のお祭りやイベント等に積極的に参画したり、地域住民が参画する事業を通じて、地域住民と対話の場を生み出す。また劇場ロビーを打合せの場として開放しており、日常的に地域住民が利用している状況を創出している。

(3) 行政 [文化庁/地方自治体等]：地方自治体の職員には、公演事業や普及啓発事業への来場や参画を呼びかけ、当団体の活動を把握できるような機会を多く創出する。

- (4) 公式ウェブサイトやSNSでの発信を恒常的に行う。

また、(1)～(4)が交流する場として、年に一度、DANCE BOX会員（獲得）を対象とした「DANCE BOX ファン感謝祭 Don Don Thanks PARTY」を実施し、ミッションや取組を発信。また、DANCE BOX会員間の交流を促しながら、各会員のヒアリングを実施する。

#### 【取組及びその成果・効果、ミッション等の情報発信】

##### ■紙媒体

・個別事業のチラシやポスター：[取組]他劇場やフェスティバルで行われる実演芸術への挟み込み、全国の主要な劇場や文化施設/関西圏のダンス部のある大学や高校/商店街や市場およびコミュニティ・スペース等への配布や掲示、劇場顧客へのダイレクトメール送付 他

##### ■ウェブ・メディア

公式ウェブサイト：[実績]閲覧数：54,795件

[取組] 事業概要だけではなく、公演鑑賞をより楽しめるようにアーティスト・インタビューを実施し、公演後にはレビューを掲載しフォローアップを行う。①事業概要、②各公演前に実施するアーティスト・インタビュー、③公演レビュー、④公演によっては関係者からのリコメンド・メッセージ集

##### ■ソーシャル・メディア

・Twitter：[実績]フォロワー数：2,120名 [取組]3コマ/1日 配信

・facebook：[実績]Dance Boxページへのいいね数：2,080名、フォロワー数：2,121名

##### ■マスメディア

新聞/区民だより「ながた」/ウェブマガジンartsscape/京都芸術センターニューズレター等に掲載 [実績]レビュー・プレビュー含めて18件の掲載

#### 【所在地までの利便性】

[最寄り駅からのアクセス]JR「新長田駅」より徒歩8分/地下鉄山手線・海岸線「駒ヶ林駅」より徒歩3分 ※地下道を使用すると傘の必要がない

[新幹線利用の場合]地下鉄山手線「新神戸駅」-「新長田駅」まで乗り換えなしで乗車可能。

[関西国際空港/伊丹空港利用の場合] 空港シャトルバスでJR「三ノ宮駅」着、「新長田駅」まで4駅乗車のみ

[補足]また、地域住民の足である「自転車」置き場も併設されている。

★但し、実演芸術の愛好家や関係者の多くは京都に在住し、三ノ宮以西にある「新長田」は遠い距離感であることは否めない。

## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

ArtTheater dB KOBÉは、令和元年度については「劇場・音楽堂等活性化事業」への申請を取りやめた。その理由は、民間劇場を運営している当団体にとって、1/2の補助助成が経営を圧迫する為である。よって、当項目のテーマである「持続性」は、火急の課題である。平成30年度の「課題」及び「今後の展望」の側面から、「持続性」について記述する。

#### 【安定的な人材確保のための職場環境の整備について】

平成30年度における「劇場・音楽堂等活性化事業」にかかる外注及び雇用スタッフの男女比の状況については次の通りである。

男女比：男性5名、女性8名～11名

男女比でみると、女性の割合が多い。結婚、妊娠出産、介護の段階に入ると、勤務を継続することが難しいケースが増える。劇場では土曜日・日曜日の勤務が主となることや、劇場利用時間の設定が10:00～22:00なので夜間までの勤務となる為である。ノウハウを蓄積したスタッフが継続して勤務でき、他のスタッフにしわ寄せがいかない環境の為の制度設計が急がれる。

#### 【劇場・音楽堂等間のネットワークの形成について】

引き続き「NPO法人ON-PAM 舞台芸術制作者オープン・ネットワーク」や、「全国小劇場ネットワーク」への参加を継続して行い、劇場・音楽堂等間のネットワークを構築していきたい。それは、「新作創作」を“複数の”劇場やフェスティバルによる共同製作で進めることが経営的な側面からみても必要だと考えているからである。しかしながら、ダンス・プログラムを上演する劇場やフェスティバルが全国的に減少し、各々の事業予算の格差がある。今後、どのようなあり方に可能実現性があるのか、実務者レベルでのネットワークキングが必要だと考える。

#### 【安定的な収益基盤を整える為の課題について】

安定的な収益基盤を整える為の課題について、次のように考える。

・高齢者層や移民コミュニティ等が多く、大企業や高所得者層が少なく、地域における問題を多く抱えた課題先進都市と言える当地域社会において、収益基盤をどのように考えるのか。

・平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業の採択結果をみると、兵庫県において、「劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業」に公益財団法人によって運営される2施設、並びに、「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」に公益財団法人によって運営される3施設、及び特定非営利活動法人によって運営される2施設（当劇場が含まれる）が選出されている。首都圏以外の他県と比べると劇場数の多さが分かる。またその多くは兵庫県や神戸市等の傘下にある公益財団法人の運営施設であり、その中で公の支援を持続的にどのように確保するのか。

#### 【将来の人事戦略】

上記の課題に対応する為に、次のような人為戦略を検討している。

平成30年度は、全事業においてプログラム・ディレクターが主導して事業を進めて来たが、4項目（「ダンスプログラム」「アウトリーチプログラム」「産官学連携プログラム」「教育プログラム」）に基づいた5名の共同ディレクター制によって運営し、劇場の顔をつくっていく。狙いは、各々のディレクターのもつ独自のネットワークを活かして、細やかなリサーチや現状分析を行い、特徴のあるプログラムを打ち出すこと。そして、各々のディレクターが独自に財源確保に務め、経営リスクを分担することである。この数年の事業実施において、そのディレクターを支えるスタッフが育ち、幅広いプログラムに対応できる体制が整ったと言える。